

総合医を目指すなら、 キャリアアップに適した 健康長寿の長野県へ

長野県健康福祉部長 眞鍋 馨



長野は「健康長寿県」と 言われています

平成22年の厚生労働省の調査によりますと、長野県の平均寿命は、男女ともに全国1位となっています。また、日本は世界有数の長寿国であることから、長野県の長寿は世界トップレベルと言えると思います。では、健康長寿の要因は何か？ということですが、いろいろな要因が考えられます。例えば、高齢者の就業率が高い、お年寄りがいきいきと生活している、野菜摂取量が多いなどです。

特に、本県独自の特徴として挙げられるのが、健康ボランティアである保健補導員や食生活改善推進員などとの連携し、総合診療を進めてきました。保健補導員などとのコンタクトを常に行的、地域住民とのつながりや交流を大切にしながら、総合診療についても早くから実践してきたこれらの病院は、全国から多くの研修生が集まっています。

そのため、健康福祉部長としては、県内8カ所ががん診療連携拠点病院を整備するとともに、国の地域医療再生基金を活用し、救急医療の確保、地域の医師確保など、地域医療のレベルアップに努めてきました。地域医療再生基金は、県で地域医療の課題を解決するための計画を作成し、国で審査を受けて金額が決まるのですが、第1次分で50億、第2次分で86億、第3次分で13・5億と認めていただきました。特に、第2次、第3次分は全国最高の評価(被災県を除く)をいただき、この資金を活用して地域医療充実のための施設整備や設備投資を進めています。

キャリアアップに賢い環境は、 長野県にある

今まで述べてきたとおり、長野県は地域医療に取り組んできた歴史があると思います。地域住民の健康意識は高いですし、地域の中では優れた医師がたくさんいらっしゃいます。また、一方で高度医療のための施設整備や設備投資を着々と行ってきました。長野県には、まさに総合医を育てる、そして地域で活躍できる医師を育てる素地があると思いますね。

「信州型総合医」とは

「信州型総合医」とは、健康長寿を支える地域保健医療活動をよく知り、患者の全身を幅広く診療できる医師を言います。

生活改善推進員などによる地域での自主的な健康づくり活動です。

保健補導員や食生活改善推進員の活動とは

長野県は、以前から健康長寿県であったわけではありません。昭和30年代は、脳血管疾患による死亡率が非常に高かったです。そこで、昭和40年代に保健補導員や食生活改善推進員などが、地域において保健予防活動を展開します。具体的には、「減塩運動や二部屋温室運動」など、予防に重点を置いた地域活動で

また、総合医として、地域のニーズを的確につかみ、ニーズに応えられる医師です。信州の豊かな自然と風土にも親しみを持っていただきたいです。今回、長野県では都道府県としてはじめて、養成プログラムを認定する仕組みをつくりました。「信州型総合医」制度をつくらせた背景には、信州には総合医を育成するための素地があつたことはもちろんです。今回、県が基準を提示し、プログラムの質を担保することにも、各病院で特徴、強みを活かしたプログラムをつくらせていただきました。

各病院でどのような研修が行われるのか研修生の皆さんにとってわかりやすいものになったと思いますし、平成29年度から開始される総合診療専門医を見据えた基準としたことで、魅力的なものになったと考えています。将来的には、国の動きを見据えながら、国の総合診療専門医の資格を取得できるものを目指していきます。

特徴ある12病院の養成プログラム (山岳診療所研修、海外研修ほか)

今回、認定された12病院のプログラムは、それぞれの病院で特徴のあるものとなっております。総合医として地域医療を支える能力を修得するために、医学的な問題だけでなく、先程述べました保健補導員や食生活改善推進員などとの連携した研修、保健・福祉などの患者のニーズを踏まえたプライマリ・ケアに必要な研修などがあります。さらには信州は山岳観光が盛んな県ですが、山岳診療所における研修、キャリアアップのためハワイ大学や、福島県立医大と連携したオランダでの地域医療研修など、魅力あふれるメニューが数多く考えられています。詳しくは、ぜひそれぞれの病院にお尋ねいただきたいです。

総合医を目指すなら長野県!!

「信州型」の特徴はこれまで述べてきたとおり、自然豊かな長野という地で、地域の方々とともに予防から介護まで全人的に医療・保健・福祉・介護を包括して学んでいただけることです。また、県と「信州型総合医」養成プログラムを持っている病院群、地域として信州が一体となって同じ認識を持ち、総合医を育てていく。それが「信州型」と言えるでしょう。

信州大学では、平成25年10月に「総合診療科」が新たに設置され、ハワイ大学から本県出身の医師が着任しました。県・大学・病院として県医師会などがいっそう連携して総合医を育てます。

まずは、この養成プログラムを受講していただき、将来は日本をリードする指導医となり、後輩を指導してほしいと思っています。患者さんのためにみんな連携し合い、地域医療を充実させることで、地域力を高め、全国に発信していけたらと考えています。



まなべ・かおる ●平成7年 厚生省(当時)入省、保健医療局エイズ疾病対策課臓器移植対策室臓器移植係長、大臣官房政策課介護報酬係長、大臣官房厚生科学課長補佐(ロンドン大学留学)、保険局医療課長補佐、大臣官房厚生科学課長補佐等を歴任後、平成23年7月30日に長野県へ着任、平成24年1月1日より現職